

提出日： 2023 年 5 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	教授	吉野 朋美

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2022年4月 1日 ～ 2023年3月31日 2. 2022年9月 1日 ～ 2023年8月31日 3. 2022年4月 1日 ～ 2022年9月20日 4. 2022年9月21日 ～ 2023年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	主に三つのテーマで研究活動をおこなったので、それぞれに分けて以下に記します。 ①後鳥羽院受容史研究——隠岐配流後に後鳥羽院が主催した『遠島歌合』の注釈を完成させた。また、没後の後鳥羽院受容の様相を探るべく、大原の後鳥羽院・順徳院陵踏査、隠岐神社祭礼に合わせて島における後鳥羽院受容の様相の調査に行った。 ②『散木奇歌集』の注釈的研究——大部分の注釈を遂行した。 ③探究型の古典教育に関する研究——日本古典文学を研究している大学院留学生（コロンビア大学院生を中心とする）及び国内の大学院生に向けてのワークショップを行った。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	①『遠島歌合』注釈完成により、晩年の後鳥羽院における本歌合の意味を具体的に見出すことができた。この注釈は次年度（2023年度）中に刊行の予定である。また、没後の受容を実地で調査する中で、後鳥羽院同様に配流された順徳院や親王達についても基礎的研究を深めることが必要だという認識を得られ、それに関する論文を執筆できた。 ②近代以降の注が皆無だった家集への注釈ゆえ、後世に多大な影響を与えた源俊頼の和歌の総体を明らかにし得る成果である。成果の刊行はもう少し先になる予定である。 ③代表を務める科研事業と連動した研究で、本ワークショップの有用性と汎用性を確認することができた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	①後鳥羽院受容の様相は多岐に、また近現代にも及ぶため、まずは特定の和歌を中心にその様相をたどりつつ、通史的にとらえていきたい。また、特に配流先で没した後鳥羽院皇子六条宮雅成親王の和歌についてはほぼ研究がないので、全容を明らかにしたい。 ②注釈をもとに、源俊頼の和歌の特質と、その歌が後世に与えた影響についての研究を深めていきたい。 ③科研事業と連動させつつ、過去におこなってきたワークショップをブラッシュアップして国内の高校教員や海外の学生に実践し、より汎用性の高い教材コンテンツとしていきたい。